

授業科目名 (英文表記)	「きのくに文学」名作案内 (Kinokuni-Literature : An Introduction to Japanese Philosophy)		
単位数	2 (学部生のみ)	授業形態	講義・演習
担当教員	天野 雅郎		
開 講	南紀熊野サテライト (田辺市)	区 分	学部開放科目
実施日・時間	第1回 10月14日(土) 13:00~17:00	第4回 12月2日(土) 13:00~17:00	
	第2回 10月28日(土) 13:00~17:00	第5回 12月9日(土) 13:00~17:00	
	第3回 11月11日(土) 13:00~17:00	第6回 1月20日(土) 13:00~17:00	
<b>【授業の概要・ねらい】</b>			
<p>文学という語が昨今のように、いたって狭い、限られた意味でしか用いられなくなってしまった時代を、これまで私たちは経験したことがありません。なにしろ、もともと文学とは読んで字のごとく、そのまま文(=文字+文章)を学ぶことを指し示し、まず学問の同義語として中国で生まれ、それが私たちの国にも伝わり、古代から中世へと受け継がれてきたからです。また、その文学が近代以降、英語(literature)の翻訳語に姿を変えてからも、その適応範囲は私たちの読み書き力(literacy)の全体に及ぶものであり、決して詩歌や小説を読んだり、書いたりすることに尽きるものではありませんでした。事実、例えば大学の文学部とは、はなはだ狭い、限られた文学を学ぶための場ではなく、そこには哲学や宗教や、歴史や芸術を始めとして、あらゆる人間性(humanity)を学ぶための場が、その名の通りの人文学(humanities)として設えられ、開かれています。その点、そもそも文学とは文化(culture=教養)と語義を等しくするものであり、その意味において、それは私たちの教養(Bildung=人格陶冶)の最たるものと言い換えても構わないでしょう。この授業では、そのような文学の原義にまで立ち返り、どれほど文学が私たちの生活や人生に対して重要な、決定的な影響力を有するものであるのかを、皆さんと共に振り返りたいと思います。そして、そのことを具体的に、現在の和歌山の前身である「きのくに」(木国→紀伊国)を舞台とする作品群や、そこに生まれ育ち、あるいは、この舞台と何らかの縁(ゆかり)のある作家たちを取り上げ、これらの作家や作品の読解を通じて、どれほど「きのくに」が大きな、豊かな文学圏(=文化圏)を歴史上、この和歌山において築き上げ、今に至るまで保ち続けているのかを、皆さんと共に再認識し、再確認するのが狙いです。</p>			
<b>【授業計画】</b>			
第1回：古代篇(Ⅰ)神話論			
第2回：古代篇(Ⅱ)和歌論			
第3回：中世篇(Ⅰ)宗教論			
第4回：中世篇(Ⅱ)芸能論			
第5回：近代篇(Ⅰ)詩歌論			
第6回：近代篇(Ⅱ)小説論			
<b>【到達目標】</b>			
和歌山が歴史上、どのような文学的風土を育み、それを今に至るまで、脈々と伝統として受け継いでいるのかを、その全体像において捉えることが目標です。			
<b>【成績評価の方法・基準(学部生のみ)】</b>			
授業への参加度・発言等を踏まえて、最終的に期末レポートで評価をします。			
<b>【教科書】</b>			
教科書として、個別に使用するテキストはありません。			
<b>【参考書・参考文献】</b>			
適宜、授業中に紹介します。膨大な量に上り、この場では紹介し切れませんので、あしからず。			
<b>【履修上の注意・メッセージ】</b>			
オンライン授業ですので、日本全国、津々浦々からの受講が可能です。出来るだけ多くの皆さんの、ご参加を期待します。(授業は、南紀熊野サテライト(田辺市)で行います。講師は、田辺市に来ず外部からオンラインで授業を行います。)			
<b>【履修する上で必要な事項】</b>			
パソコンは各自で、ご準備ください。サテライトの教室内で、ご一緒に受講して頂いても構いません。			
<b>【授業時間外学修についての指示】</b>			
毎回の授業に際して、それぞれ事前と事後の学修が必要になります。			
<b>【授業理解を深める方法】</b>			
参考文献にも可能な限り、目を通して頂きますと幸いです。			